



■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 ■バージョン: CASBEE横浜2017年版v.1.7

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	消防本部庁舎	階数	地上8F、地下1F
建設地	横浜市保土ヶ谷区川辺町2番地20	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	272 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2025年3月 竣工	評価の実施日	2025年7月14日
敷地面積	2,865 m ²	作成者	浅野智之
建築面積	2,200 m ²	確認日	2025年7月14日
延床面積	14,421 m ²	確認者	浅野智之



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 3.3

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

① 参照値	100%
② 建築物の取組み	74%
③ 上記+②以外の	74%
④ 上記+	74%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 4.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 4.1

音環境	4.0
熱環境	3.8
光・視環境	4.1
空気質環境	4.6

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 4.4

機能性	4.1
耐用性・信頼性	4.8
対応性・更新性	4.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.5

生物環境	3.0
まちなみ・景観	4.0
地域性・アメニティ	3.5

LR のスコア = 4.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.3

建物外皮の熱負荷	5.0
自然エネルギー	4.0
設備システム効率化	4.2
効率的運用	4.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 4.3

水資源保護	3.8
非再生材料の使用削減	5.0
汚染物質回避	3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

地球温暖化への配慮	4.0
地域環境への配慮	3.0
周辺環境への配慮	3.4

3 設計上の配慮事項		
総合 横浜市の消防本部機能として、地震、水害等に対する防災力に優れ、BCPIにも寄与する省エネ性能の高い庁舎		その他 2段階の浸水対策 浸水深: 1m未満 防潮版設置 外部開口部防水ドアの採用 浸水深 1~2.7m (最大浸水深): 地下階にある設備の防水対策 止水MHの採用
Q1 室内環境 執務室空調(騒音源)を採り出し輻射空調による騒音低下 サッシュ遮音性能T-2 窓: ECP+断熱材厚50mm 開口部: LOWEガラスサッシュ 採り出し方式による高性能空調 ライツヘルプ(水平・垂直)設置(南西面) 床壁天井☆☆☆☆材料の採用、ホルムアルデヒド以外の汚染物質低減措置	Q2 サービス性能 一人当たり9㎡以上の執務スペース OAフロアコンセント容量 4.0VA/㎡ BCPコンセプト→天井レス執務室 非常時対応がしやすい オフィスレイアウトモジュール化した照明	Q3 室外環境(敷地内) 屋上緑化 周辺建物高、色彩の調和 空地部分への緑化 地域性のある素材(レンガ)の採用
LR1 エネルギー 水平・垂直ライツヘルプの採用、自然換気できる開口部 BPI0.69 BEI0.68 エネルギー消費の把握ができるBEMS採用	LR2 資源・マテリアル 雨水中水利用 プレストレス梁 PC床板等の採用 自然冷媒(冷温水)による空調システム	LR3 敷地外環境 燃焼器具の不使用 風の通り道による夏季の卓越風への配慮 屋上緑化 高反射屋根(ヘリパッド) 外壁面高反射塗装(白系) 風向シミュレーション

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



4 横浜市重点項目についての環境配慮概要 <非住宅>

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。

建物名称 **消防本部庁舎**

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving 重点項目への取組(5点満点) **【省エネルギー性能】 4**

■省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)

この建物の設計一次エネルギー消費量 **32** %削減



一次エネルギー消費量基準	適合
外皮基準	対象外

受付日 2020年3月17日

■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

①BPI=0.69

②ライトシェルフの採用、自然換気できる開口部等

③BEI=0.68

④エネルギー消費の把握ができるBEMS採用、運用管理体制の確立、エネルギー消費量の目標値の設定等

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community 重点項目への取組(5点満点) **【快適・働きやすさ】 4**

■室内環境対策 (⑨温熱環境対策 ⑩光環境 ⑪空気質環境)

⑨壁: ECP+断熱材厚50mm開口部: LowEサッシ、中央熱源と個別空調併用、床輻射吹き出し方式による居住域空調等

⑩ライトシェルフ、電動ブラインド、500lx ≤ 全般照明方法 < 1000lx、1作業(スパン)単位でリモコンスイッチ制御等

■機能性対策 (⑫機能性 ⑬知的生産性向上の取組)

⑫9㎡/人以上、OAフロアコンセント40VA/㎡、CH2.9m以上、自販機設置、維持管理し易い内外装・設備計画等

⑬無柱空間の執務室、位置変更可能な床吹出空調、共用部に打合せスペース・リフレッシュスペース、食堂、エントランス設え等

■室外環境(敷地内)対策 (⑭敷地内温熱環境の向上)

⑭敷地内通り抜け通路、人が出入りできる屋上緑化、屋外機の屋上設置等

防災への配慮 (R) Resilience 重点項目への取組(5点満点) **【防災】 5**

■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)

⑮中間層免震の採用等

⑯耐久性の高い仕上げ材の採用等

⑰緊急汚水槽、雨水中水利用、自家発電設備、設備免震対応、熱源と通信・情報設備の引き込み2重化、複数の災害情報入手等

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape 重点項目への取組(5点満点) **【地域・まちづくり】 4**

■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)

⑱ I 立地特性の把握と計画方針の設定、Ⅲ緑の量の確保、Ⅳ緑の質の確保、Ⅴ生物資源の管理と利用

⑲周辺の街並みや風景にバランスよく調和、植栽による景観形成、周辺の主要な視点場からの景観形成等

⑳地域性のある素材(レンガ)の採用、司令センター見学コースの設置、中庭の設置、外構に防犯カメラ設置等

太陽光発電などの導入



太陽光利用

エネルギーマネジメントシステム導入

BEMS

環境配慮技術の導入

(太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)

コジェネレーション

雨水等利用設備

その他: 床輻射吹き出し空調システム



CASBEE横浜2017年版v.1.7

消防本部庁舎

バージョン CASBEE横浜2017年版v.1.7

スコアシート	実施設計段階	重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								4.0
Q1 室内環境								4.1
1 音環境				4.0	0.15	-	-	4.0
1.1 騒音				4.0	0.40	-	-	-
1.2 遮音				4.2	0.40	-	-	-
1.2.1 開口部遮音性能				5.0	0.60	-	-	-
1.2.2 界壁遮音性能				3.0	0.40	-	-	-
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-	-
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-	-
1.3 吸音				4.0	0.20	-	-	-
2 温熱環境				3.8	0.35	-	-	3.8
2.1 室温制御				3.5	0.50	-	-	-
2.1.1 室温		快適・働きやすさ	⑨温熱環境	2.0	0.38	-	-	-
2.1.2 外皮性能		快適・働きやすさ 健康・安心	⑨温熱環境 ⑤外皮性能	5.0	0.25	-	-	-
2.1.3 ソーン別制御性		快適・働きやすさ	⑨温熱環境	4.0	0.38	-	-	-
2.2 湿度制御		快適・働きやすさ	⑨温熱環境	3.0	0.20	-	-	-
2.3 空調方式		快適・働きやすさ	⑨温熱環境	5.0	0.30	-	-	-
3 光・視環境				4.1	0.25	-	-	4.1
3.1 屋光利用				2.8	0.30	-	-	-
3.1.1 屋光率		快適・働きやすさ	⑩光環境	2.0	0.60	-	-	-
3.1.2 方位別開口		快適・働きやすさ	⑩光環境	-	-	-	-	-
3.1.3 屋光利用設備		快適・働きやすさ	⑩光環境	4.0	0.40	-	-	-
3.2 グレア対策				5.0	0.30	-	-	-
3.2.1 屋光制御		快適・働きやすさ	⑩光環境	5.0	1.00	-	-	-
3.3 照度		快適・働きやすさ	⑩光環境	4.0	0.15	-	-	-
3.4 照明制御		快適・働きやすさ	⑩光環境	5.0	0.25	-	-	-
4 空気質環境				4.6	0.25	-	-	4.6
4.1 発生源対策				5.0	0.50	-	-	-
4.1.1 化学汚染物質		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	5.0	1.00	-	-	-
4.2 換気				3.6	0.30	-	-	-
4.2.1 換気量		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	4.0	0.33	-	-	-
4.2.2 自然換気性能		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	4.0	0.33	-	-	-
4.2.3 取り入れ外気への配慮		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	3.0	0.33	-	-	-
4.3 運用管理				5.0	0.20	-	-	-
4.3.1 CO ₂ の監視		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	5.0	0.50	-	-	-
4.3.2 喫煙の制御		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	5.0	0.50	-	-	-
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	4.4
1 機能性				4.1	0.40	-	-	4.1
1.1 機能性・使いやすさ				3.6	0.40	-	-	-
1.1.1 広さ・収納性		快適・働きやすさ	⑫機能性	4.0	0.33	-	-	-
1.1.2 高度情報通信設備対応		快適・働きやすさ	⑫機能性	4.0	0.33	-	-	-
1.1.3 バリアフリー計画		快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	0.33	-	-	-
1.2 心理性・快適性				5.0	0.30	-	-	-
1.2.1 広さ感・景観		快適・働きやすさ	⑫機能性	5.0	0.33	-	-	-
1.2.2 リフレッシュスペース		快適・働きやすさ	⑫機能性	5.0	0.33	-	-	-
1.2.3 内装計画		快適・働きやすさ	⑫機能性	5.0	0.33	-	-	-
1.3 維持管理				4.0	0.30	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計		快適・働きやすさ	⑫機能性	4.0	0.50	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保		快適・働きやすさ	⑫機能性	4.0	0.50	-	-	-
2 耐用性・信頼性				4.8	0.30	-	-	4.8
2.1 耐震・免震				5.0	0.50	-	-	-
2.1.1 耐震性		防災	⑮耐震・免震	5.0	0.80	-	-	-
2.1.2 免震・制振性能		防災	⑮耐震・免震	5.0	0.20	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数				4.6	0.30	-	-	-
2.2.1 躯体材料の耐用年数		防災	⑯部品・部材の耐用年数向上	5.0	0.20	-	-	-
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		防災	⑯部品・部材の耐用年数向上	5.0	0.20	-	-	-
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		防災	⑯部品・部材の耐用年数向上	5.0	0.10	-	-	-
2.2.4 空調換気ダクトの更新必要間隔		防災	⑯部品・部材の耐用年数向上	5.0	0.10	-	-	-
2.2.5 空調・給排水配管の更新必要間隔		防災	⑯部品・部材の耐用年数向上	5.0	0.20	-	-	-
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔		防災	⑯部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-	-
2.4 信頼性				5.0	0.20	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備		防災	⑰信頼性	5.0	0.20	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備		防災	⑰信頼性	5.0	0.20	-	-	-
2.4.3 電気設備		防災	⑰信頼性	5.0	0.20	-	-	-
2.4.4 機械・配管支持方法		防災	⑰信頼性	5.0	0.20	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備		防災	⑰信頼性	5.0	0.20	-	-	-
3 対応性・更新性				4.4	0.30	-	-	4.4
3.1 空間のゆとり				4.6	0.30	-	-	-
3.1.1 階高のゆとり				5.0	0.60	-	-	-
3.1.2 空間の形状・自由さ				4.0	0.40	-	-	-



CASBEE横浜2017年版v.1.7

消防本部庁舎

バージョン CASBEE横浜2017年版v.1.7

スコアシート		実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
3.2 荷重のゆとり				5.0	0.30	-	-			
3.3 設備の更新性				4.0	0.40	-	-			
1 空調配管の更新性				2.0	0.20	-	-			
2 給排水管の更新性				4.0	0.20	-	-			
3 電気配線の更新性				5.0	0.10	-	-			
4 通信配線の更新性				5.0	0.10	-	-			
5 設備機器の更新性				5.0	0.20	-	-			
6 バックアップスペースの確保				4.0	0.20	-	-			
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	3.5		
1 生物環境の保全と創出		地域・まちづくり	⑩生物環境の保全と創出	3.0	0.30	-	-	3.0		
2 まちなみ・景観への配慮		地域・まちづくり	⑨まちなみ・景観への配慮	4.0	0.40	-	-	4.0		
3 地域性・アメニティへの配慮				3.5	0.30	-	-	3.5		
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		地域・まちづくり	⑫地域性への配慮	4.0	0.50	-	-			
3.2 敷地内温熱環境の向上		快適・働きやすさ	⑭敷地内温熱環境の向上	3.0	0.50	-	-			
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	4.0		
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	4.3		
1 建物外皮の熱負荷抑制		省エネルギー性能	①建物の熱負荷抑制	5.0	0.20	-	-	5.0		
2 自然エネルギー利用		省エネルギー性能	②自然エネルギー利用	4.0	0.10	-	-	4.0		
3 設備システムの高効率化		省エネルギー性能	③設備システムの高効率化	4.2	0.50	-	-	4.2		
4 効率的運用				4.0	0.20	-	-	4.0		
集合住宅以外の評価				4.0	1.00	-	-			
4.1 モニタリング		省エネルギー性能	④効率的運用	4.0	0.50	-	-			
4.2 運用管理体制		省エネルギー性能	④効率的運用	4.0	0.50	-	-			
集合住宅の評価				-	-	-	-			
4.1 モニタリング		省エネルギー性能	④効率的運用	-	-	-	-			
4.2 運用管理体制		省エネルギー性能	④効率的運用	-	-	-	-			
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	4.3		
1 水資源保護				3.8	0.20	-	-	3.8		
1.1 節水				4.0	0.40	-	-			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.7	0.60	-	-			
1 雨水利用システム導入の有無				4.0	0.70	-	-			
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30	-	-			
2 非再生性資源の使用量削減				5.0	0.60	-	-	5.0		
2.1 材料使用量の削減				5.0	0.11	-	-			
2.2 既存建築躯体等の継続使用				5.0	0.22	-	-			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				5.0	0.22	-	-			
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				5.0	0.22	-	-			
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-	-	-			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				5.0	0.22	-	-			
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.20	-	-	3.0		
3.1 有害物質を含まない材料の使用				4.0	0.30	-	-			
3.2 フロン・ハロンの回避				2.6	0.70	-	-			
1 消火剤				1.0	0.33	-	-			
2 発泡剤(断熱材等)				4.0	0.33	-	-			
3 冷媒				3.0	0.33	-	-			
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.4		
1 地球温暖化への配慮				4.0	0.33	-	-	4.0		
2 地域環境への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0		
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-			
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50	-	-			
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.2	0.25	-	-			
1 雨水排水負荷低減				3.0	0.25	-	-			
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-			
3 交通負荷抑制				4.0	0.25	-	-			
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-			
3 周辺環境への配慮				3.4	0.33	-	-	3.4		
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-			
1 騒音				3.0	1.00	-	-			
2 振動				-	-	-	-			
3 悪臭				-	-	-	-			
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				3.0	0.40	-	-			
1 風害の抑制				3.0	0.70	-	-			
2 砂塵の抑制				3.0	-	-	-			
3 日照阻害の抑制				3.0	0.30	-	-			
3.3 光害の抑制				5.0	0.20	-	-			
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				5.0	0.70	-	-			
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				5.0	0.30	-	-			

上記以外の重点項目									
<事務用途>									
知的生産性向上への取組		快適・働きやすさ	⑬知的生産性向上への取組	5.0	-	-	-		
<住宅用途>									
健康と安心									
1 化学汚染物質の対策		健康・安心	⑥健康対策	-	-	-	-		
2 適切な換気計画		健康・安心	⑥健康対策	-	-	-	-		
3 結露・カビ対策		健康・安心	⑥健康対策	-	-	-	-		
4 犯罪に備える(共用部の防犯対策)		健康・安心	⑦防犯対策	-	-	-	-		